は與へられん。冥想思惟して信奉せば、其竹膜たるや何處にか消失し、幻滅悲哀の生活は、斯くして、微妙莊嚴に建設され、悅ぶべき現象は、表現さるゝならん。

布教傳道の規範

川口智隨

聖愚問答抄云「佛法を弘通し群生を利益せんには先教機時國教法流布の前後を辨ふべきものなり所以は時に正像末あり大小乘あり修行に攝折あり」云云如說修行抄云「凡そ佛法を修行せん者は攝所二門を知るべきなり攝折二門を辨へずば爭か生死を離るべきや」云云上の御妙判に於て明なるが如く吾々佛法を弘通し群生を利益せんと欲せば須く教機時國教法流布の前後を辨ふべき也、何とならば時代は人を造り人は教法を左右するの言葉の如く教は機に依つて顯れ機は時に從つて進退あり時は國に依つて異なり國は教法流布の如何に依つて進退あり即ち五綱に依つて時代に於ける利害得失を精究し以て思想の遷移を大觀するの方法なれば也、今は時既に末法なり法は實教即法華經流布の時也修行は攝折二門の中には折伏の時也何ぞ手を束ね等閑に附するの時に非ざるや、宜しく聖祖の「日蓮先かけしたり和黨共二陣三陣と續きて加葉阿難にも勝ぐれ天台傳教にも越へよかし」云云又「相構へ〳〵て力あらん程は謗法をば攻めさせ玉ふべし」云云と激勵し玉ふ聖判に奉遵し攝折二門を適宜に應用し三大秘法の妙策及五個の宗教の利鉾を以て早く天下の謗法の罪を伐て頓に海内統記之望を遂げ萬法萬年廣宣流布に奮勵せざる可からず之れ吾々聖祖門下の義務にして又責任なり然れば吾々は須く五綱及攝折二門の意義を体得すべきなり、攝折二門は弘經の方法宣傳の要規也故に二門撰擇の當否は忽ち宗門の勢權教風の發揚盛衰浮沈に關係するものなれば本化門下は須臾も忽諸に附すべからざる最大重要問題也、今略して二門の意義を辯せば地体攝折二門は愛の結塊にして何れも大慈大悲の外なきなり、折伏は大慈にして與樂也即ち

父の嚴愛也攝受は大悲にして扳若なり即ち母の愛にして期する處二門共に愛の結塊なり此の大慈大悲の弘經を以て一切衆生を救濟すべきなり、抑〻六百有餘年前聖祖朝に刀杖毀謗夕に遠竄流刑の大小の難指數するに遑あらずと雖も豪然として屈せず猛然として撓まず四個格言を以て折伏逆化而强毒之の弘通をなされし事他なし只妙法蓮華經の七字五字をば日本國の一切衆生の口に入れんと勵み玉ふ此れ即ち母の赤子の口に乳を入れんと勵む慈悲にして迷霧の間に彷徨しつゝある社會無邊の群類をして速に大悟界に安住せしめ以て即身成佛の大果を獲得せしむるにあり、然るに宗祖滅後六百四十有餘年其間憂宗救世の導師輩出せしと雖も未だ徹せず攝折相互に暴と罵り怯と笑ひ氷炭相容れず遂に大慈大悲の化導を阻礙し宗旗の不振を招きし事往々なり、此等の人師は所謂經典祖典を拜するに私意を以て評量し祖意を失ふを以て誤見を生ずるに至りしもの也、亦中古德川時代に於ては信仰の自由も厭制せられ自己の信ずる正義の宗旨ありと雖も轉宗轉檀する事能はざりしも時機至り信仰及言論の自由たる今日にあつて吾々は宜しく時方の緣處を鑑み攝折進退宜しきを得布教傳道に盡力せずんばあるべからず、今や宗教狀態を視察するに種々なる宗教百出せり、故に宗祖當時の四個格言は六個格言七個格言ともなるべきなり、所謂社會の人心をして惑亂せしめ煩悶苦痛を生せしむる基督教天理教大本教等續出し眞理正義の弘宣を阻害せんとす淨土眞宗の如き甚敷に至つては經典祖典を無視し矛盾せる新義を主張するに至れり、其の新義たるや先覺者は我家の主義を盜み取り國家中心を論じ或は現實主義を論じ祖師の未來主義厭世思想より覺醒するに至れり、斯る時期に遭遇せる吾々聖祖門下は耶蘇教來れ天理教來れ大本教來れ禪宗來れ來つて眞理を較せよ汝我に勝たば我汝が跨下に出でん我汝に勝たば速に白旗を擧げよ底の抱負を以て旗鼓堂々眞理を爭ふの折伏態度に出でざ可からず、今や歐洲戰亂の影響に依り社會の人類は經濟問題或は食糧問題勞働問題其他百般

の問題に就て物質的或は精神的に煩悶し苦痛を感じつゝある現今の狀態なり、且く物質問題は扨て置き精神の苦痛は宗教を離れて他に苦痛を免るゝ道なきを知り佛の教に從ひ何物乎を得んと切望して止まざるなり、其の切望たるや譬ば幼兒の空腹を感じ苦み泣ける兒に我慢をせよ明日ならば馳走すると云ふ親の言葉を以て子供は滿足するや否決して滿足せざるなり、之を一般社會の人間は現在生活に迂遠の事より眼前の生活に關係を有する問題明日と云はず今日の問題を解決し吾々に一大安心を與へられん事を欲求して止まざる今日なり、故に末法應時の教法即ち日蓮聖人の百般の方面に於ける御教に從ひ社會人類を救濟し聖祖の御理想たる一天四海皆歸妙法の實現に勵まざるべからず、其の實現たるや實に本化門下教徒の努力に俟つものなれば身心を法華經に奉獻し、布教傳道に精勵し以て益〻宗風の宣揚を期せん事を希望して止まざる耳。

◉日蓮主義とは何ぞ

一、日蓮主義讃仰の氣運

辻　能　學

近頃宗祖日蓮上人の人格及び理想が一般の學者青年並びに上流中流の有識階級の人々の間に渇仰讃仰せられつゝある事は寔に異常の趨勢を爲してゐる。

其事實的證跡として見らるべき現象は國柱會、天晴會法華會等の如き上流人士を中堅とせる會合或は帝國大學以下各專門學校の吾が日蓮上人鑽仰研究の會合は數十を以て數へられ又諸新聞諸雜誌に及ぶ迄で聖人の史活又は小說講談の類を揭載しないものはないと云ふ宗教上未曾有の日蓮主義鑽仰の時代は來つたのである斯る氣運を促成したに就ては種々の原因に依ると雖も根本的に云へば世界を通じての現代の趨勢と個人的生存の必要と國家の運命とが必然的に促して聖人の如き徹底せる大人格深宏なる大理想に不知不識の間に其の標的